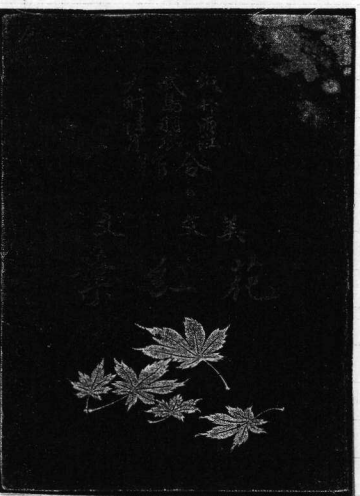


武島羽衣 たけしま はねうしろ 詩人、歌人、國文學者。明治五年十一月二日東京生まれ、昭和四十一年二月二日歿（八七—一九七）。本名又次郎。別號霞裳、霞裳子、霞裳書室のあかし等。第一高等學校と經て、明治二十九年帝國大學文科大學國文學科卒。在學中雜誌『帝國文學』創刊に參劃。二十二年東京女子高等學校教授、翌年東京高等師範學校教授兼任、四十一年日本女子大學校教授、大正十一年宮内省御歌所寄人、昭和二十二年聖心女子大學教授。

著譯書、美文『花紅葉』（藤井雨村合著、明治二十九年十一月二十七日博文館）、詩體『この花』（内題「このはな」合著、新詩會編、明治二十年三月十一日博文館）、『紅葉集』（合著・石橋哲次郎編、明治二十年十一月二十一日博文館）、『無聲簡鳴』（合



著・岩崎英甫編、明治二十一年五月二十八日興雲閣）、『修辭學』（本名、明治二十一年九月二日博文館「帝國百科全書」）、『新撰詠歌法』（同、明治二十一年一月十五日明治書院）、『國歌評釋』（同、卷一・明治二十一年八月一日、卷一・二十二年一月十八日、卷二・十一月四日明治書院）、『霞裳歌話』（明治二十二年六月十六日博文館）、



著『文學概論』（本名、摘譯、明治二十六年九月十五日人文社）、『文章綱要』（同、明治二十七年六月）二十一年金港堂書籍株式會社『大文學叢書』（

『國語評釋法』（明治四十一年九月十五日昌隆）、習字『兼用女子書簡

文範』(西脇莫石書、明治四十一年七月十五日^{文島閣}、^{自製書店}、可近世八
 家文選』(本名、^{金子元臣}池邊義象共選、明治四十四年一月、千一白啓成社
 「日本文學選」)、^{可古今の婦人}「合著・福島四郎編、大正元年九
 月十六日婦女新聞社)、^{鹽井雨江續稿}「雨江全集」(鹽井^可名義、
 大正二年十一月七日博文館、大町桂月共編)、^{可詠歌入門}「詠歌入門」(大正二
 年二月十五日入正書院「和歌叢書」)、^{可書法詳解}「書法詳解」^{實用}女子書翰文之部
 (内題「^{書法}詳解實用女子書翰文」中村春堂書、大正二年二月二十日帝國
 講堂會)、^{可新式作文大成}「新式作文大成」(大町桂月共著、^可作例書翰文』大正
 二年十一月四日、^可作例儀式文』四年五月十五日、^可作例議論文』
 五年一月二十日博文館)、文集「^可彩雲」(合著・好文會同人、大正五
 年一月二十日精華堂書店)、^{可韻文}「韻文」^{可續花紅葉}「續花紅葉」(鹽井雨江合著、大正
 六年五月五日博文館)、^{可和歌}「和歌」(なまねび)(附録古今和歌集をなまねび
 講釋)』(再版、大正六年十月十日精華堂書店)、^{可歌へのみち}「歌へのみち」(昭
 和八年五月二十一日大日本歌道奨励會)、^{可新誌}「新誌」(本名、合著、
 昭和九年五月二十五日社會教育會編輯、社會教育會館發賣)、^{可美し}
 道』(昭和十八年八月滋賀・美し道刊行會)、^{可武島羽衣}「武島羽衣」と
 な歌集』(昭和四十二年六月、千白武島達大刊)等。



武島羽衣と女子歌集